

CASBEE-京都-建築(新築)2018年版
(仮称)河原町五条計画

■使用評価マニュアル CASBEE-京都-建築(新築)2018年
 ■評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体					
配慮項目	重点項目等	重点項目に対する全国版評価基準の見直し			評価点	重み係数	評価点	重み係数									
Q 建築物の環境品質												2.8					
Q1 室内環境												3.2					
1 音環境												3.4					
1.1 室内騒音レベル												3.0	0.40	3.0	0.40		
1.2 遮音												4.8	0.40	3.6	0.40		
1 開口部遮音性能												5.0	0.93	5.0	0.30		
2 界壁遮音性能												3.0	0.07	3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												-	-	3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												-	-	3.0	0.20		
1.3 吸音												3.0	0.20	3.0	0.20		
2 温熱環境												2.4	0.35	2.3	1.00		2.4
2.1 室温制御												2.7	0.50	2.5	0.50		
1 室温												3.0	0.38	3.0	0.57		
2 外皮性能												2.0	0.25	2.0	0.43		
3 ソーン別制御性												3.0	0.37	-	-		
2.2 湿度制御												1.0	0.20	1.0	0.20		
2.3 空調方式												3.0	0.30	3.0	0.30		
3 光・視環境												3.0	0.25	3.8	1.00	3.4	
3.1 屋光利用												3.0	0.31	4.2	0.30		
1 屋光率												3.0	0.58	5.0	0.60		
2 方位別開口												-	-	-	-		
3 屋光利用設備												3.0	0.42	3.0	0.40		
3.2 グレア対策												3.0	0.29	3.0	0.30		
1 屋光制御												3.0	1.00	3.0	1.00		
3.3 照度												3.0	0.14	3.0	0.15		
3.4 照明制御												3.0	0.26	5.0	0.25		
4 空気質環境												3.6	0.25	4.2	1.00		3.9
4.1 発生源対策												5.0	0.50	5.0	0.63		
1 化学汚染物質												5.0	1.00	5.0	1.00		
4.2 換気												3.0	0.30	3.0	0.38		
1 換気量												3.0	0.47	3.0	0.33		
2 自然換気性能												3.0	0.06	3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮												3.0	0.47	3.0	0.33		
4.3 運用管理												1.2	0.20	-	-		
1 CO ₂ の監視												3.0	0.10	-	-		
2 喫煙の制御												1.0	0.90	-	-		
Q2 サービス性能												-	0.30	-	-	2.6	
1 機能性												2.5	0.40	2.2	1.00	2.3	
1.1 機能性・使いやすさ												3.0	0.40	2.0	0.60		
1 広さ・収納性												3.0	0.06	1.0	0.50		
2 高度情報通信設備対応												3.0	0.06	3.0	0.50		
3 バリアフリー計画												3.0	0.89	-	-		
1.2 心理性・快適性												1.3	0.30	2.5	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)												3.0	0.07	4.0	0.50		
2 リフレッシュスペース												4.0	0.07	-	-		
3 内装計画												1.0	0.86	1.0	0.50		
1.3 維持管理												3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計												3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保												3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性												3.0	0.30	-	-	3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振												3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)												3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能												3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数												3.2	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数												3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												3.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔												2.0	0.20	-	-		

2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1	空調・換気設備				3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備				3.0	0.20	-	-	
3	電気設備				3.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法				3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備				3.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性					3.0	0.30	2.4	1.00	2.7
3.1 空間のゆとり					4.0	0.06	1.8	0.50	
1	階高のゆとり			階高 $\geq 3.5m$	4.0	0.60	1.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	●大切	A(全国版準用)	壁長さ比率 < 0.3	4.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.06	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					3.0	0.87	-	-	
1	空調配管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	●大切	A(全国版準用)		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.31	-	-	2.6
1 生物環境の保全と創出		●とも	A'(全国版準用)		1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		○	C(独自加点) D(独自基準)	景観地区にあり認定を受けている	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮, 快適性の向上		●とも 自然	A'(全国版準用)		3.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI $m=0.86$	4.4	0.19	-	-	4.4
2 自然エネルギー利用		●自然	A(全国版準用)		3.0	0.10	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		●自然	C(独自加点)	[BEI][BEIm] = 0.73	4.1	0.51	-	-	4.1
4 効率的運用					3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制				3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価					-	-	-	-	
4.1	モニタリング				-	-	-	-	
4.2	運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	3.3
1 水資源保護					3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水				節水コマなどに加え省水型機器等を使用している	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無	●自然	A(全国版準用)		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					3.5	0.60	-	-	3.5
2.1 材料使用量の削減		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		●大切	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		●大切	A'(全国版準用) B(推奨内容)	長尺塩ビシート、OAフロア	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		●自然	B(推奨内容) D(独自基準)		3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		●大切	A(全国版準用)	再利用できるユニット部材を用いている	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					3.0	0.70	-	-	
1	消火剤				-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3	冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.1
1 地球温暖化への配慮				LCCO $2=78%$	3.8	0.33	-	-	3.8
2 地域環境への配慮					2.4	0.33	-	-	2.4
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		●とも	A(全国版準用)		2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減				3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					3.2	0.33	-	-	3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.40	-	-	
1	騒音				3.0	0.50	-	-	
2	振動				-	-	-	-	
3	悪臭				3.0	0.50	-	-	
3.2 風害・砂塵・日照阻害の抑制					3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制				-	-	-	-	
3	日照阻害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			「光害対策ガイドライン」チェックリストの項目の過半を満たしている	5.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策	●とも	B(推奨内容)		3.0	0.30	-	-	

記号凡例 ●:重点項目 ○:低炭素景観創出に係る項目 重点項目キーワード凡例 「大切」:大切に使う 「とも」:ともに使う 「自然」:自然からつくる